

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

ドクターカーの運行再開しました

2018年7月から運行開始したドクターカー事業ですが、コロナの影響による人員配置や感染対策等の課題もあり、2020年7月から運行を休止していました。

今回、2021年8月1日より人員体制と感染対策に留意し、無事に運行再開しました。

運行時間は平日9時から17時の間に要請があれば出動致します。

ドクターカーとは、医師・看護師を現場へ早期に投入することで医療介入を早くするツールです。医師や看護師が現場に出向くことで、これまで救急車で病院に到着してからしか出来なかった処置や治療が、現場や救急車でいち早く行うことができるようになります。また、現場で医療が開始されることで患者さんにとってより早期の診断と治療が開始されることで救命率や予後の向上が期待されています。

ドクターカーが出動するのは、119番通報時に通報を受けた消防職員が、重症な症例と判断した場合に、協同病院に出動要請の電話が入り、サイレンを鳴らしながら現場へ駆けつけます。通報段階でドクターカーの出動要請を受けるため、救急車とほぼ同時に現場に着くことができ、近隣ではドクターカーが救急車よりも先に到着して医療活動を展開する事もあります。

当院のドクターカーは那覇市消防局、豊見城市消防本部、島尻消防本部と提携をしており、それぞれの消防管轄の重症事案に出動します。残念ながら、ドクターカーは消防からの要請があつての出動となりますので、一般市民や組合員さんからの要請を受けることは出来ません。

年々、救急搬送件数は増加し続けています。当院も増加し続ける件数に対して患者さんの受け入れも含め、ドクターカー事業が少しでも地域の救急医療の一助になればと思います。

救急センター看護師主任 與那嶺 雄



人類と地球の未来へ 核兵器のない世界を



原水爆禁止2021年世界大会

8/2 国際会議 8/6 世界大会【ヒロシマデー集会】 8/9 世界大会【ナガサキデー集会】

日本原水爆禁止世界大会実行委員会 〒112-8464 東京都文京区湯島2-4-4 平和文化情報センター608 TEL 03-5842-6055 FAX 03-5842-6053 E-mail: anatorn55@hotmail.com URL: http://www.anatorn.org/

原水爆禁止2021年世界大会

8月2日(月)に原水爆禁止世界大会に参加しました。1955年に広島で世界初の原水爆禁止世界大会が始まり、60年以上に渡って核兵器全面禁止・撤廃を求めてきた活動です。今回はコロナパンデミックによりオンラインでの集会参加となりました。

5才の頃に被爆し顔を火傷された方、アメリカ、韓国、インド等から参加された代表者の方々のお話を聴きました。

今年1月22日に核兵器禁止条約が国連で発効されましたが、世界ではこの条約がまだまだ人々に浸透していないこと、国によっては1日を生き抜くことに精一杯で核兵器を知らない、関心がない人々が多いことを学びました。

日本の被爆者は、平均年齢84歳となり「生きているうちに原水爆の完全撤廃を」という思いを世界に訴えたたかってきました。

今後、核兵器禁止条約が採択されたことが大きな1歩になるよう多くのメディアが発信し、私達が署名や平和活動に取り組むことで平和の波を広げ核兵器の完全撤廃に近づくと感じました。

診療情報管理室 上間 ありさ

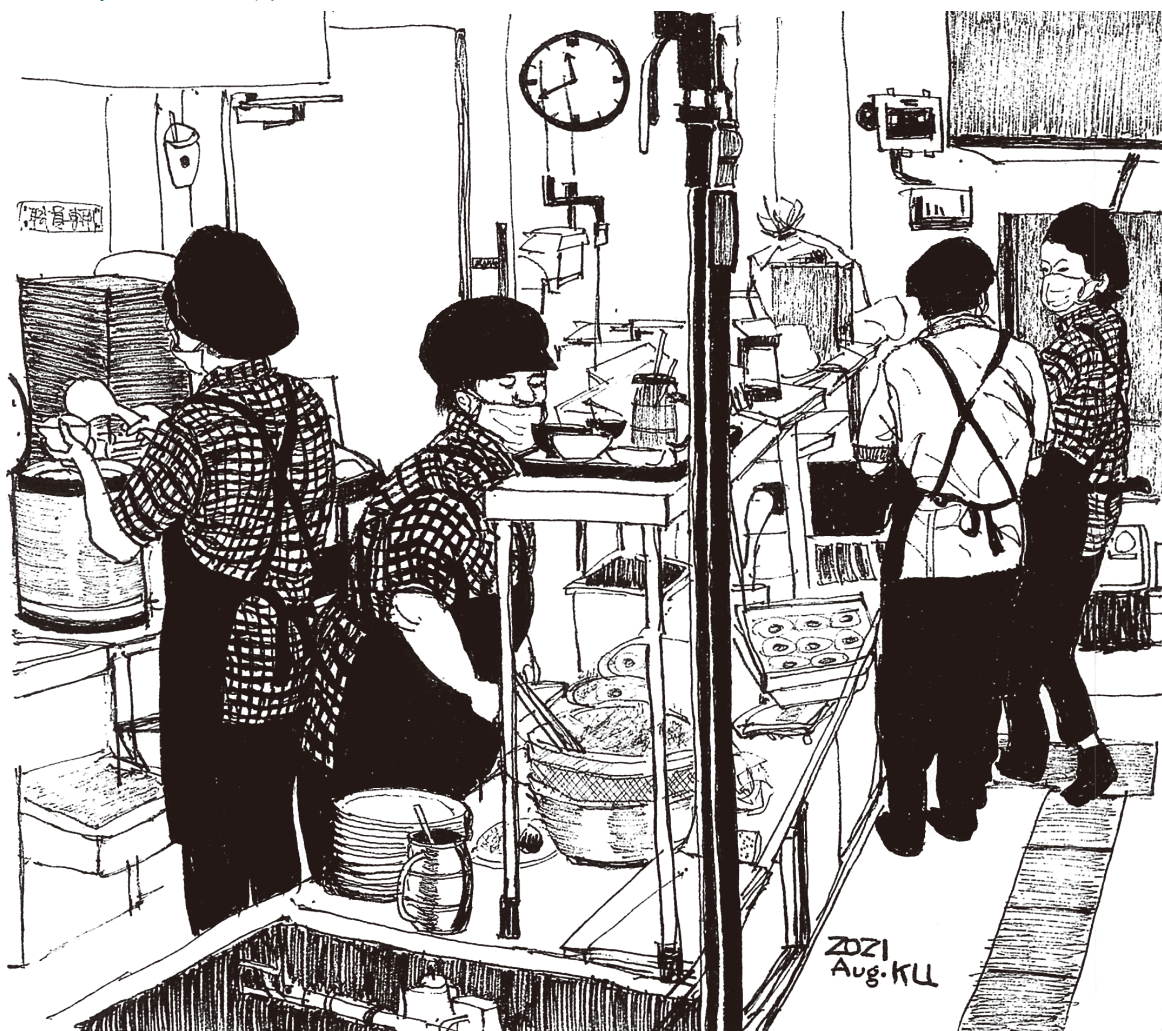


病院の活動状況 <2021年7月度>

- ・外来一日平均患者数：298人（前年同月比 -28人）
- ・入院一日平均患者数：264人（前年同月比 -19人）

いつも美味しい食事をありがとう

-沖協3階・レストランオアシス厨房-



画・内科医 上原 和博



<ご感想>

兄は、昨年6月まで〇〇先生が担当医師でした。〇〇先生は沖協をすでに退職されていましたが、外来は継続で診察していただきました。外来も終了となり私たちは医療生協の組合員として〇〇先生が勤務された病院には行けませんか返答し、那覇民主診療所に紹介されました。兄は、その後体調が思わしくなく沖協に受診となり〇〇先生の受診となりました。〇〇先生が親身に受け止めて下さり、兄は3月1日に手術、6月2日に再度6階病棟へ入院。〇〇先生にはとても感謝しています。

看護師の皆さんにも兄の体調の声かけされ本当にありがたく思いました。この感謝の思いを増資に託します。ありがとうございました。

今後とも、宜しくお願いします。



今年世界的に温暖化による熱波、森林火災、洪水等が破壊力を増し、コロナウィルスはデルタ株からラムダ株へとどんどん強力になっている。天災と人災に同時に襲われている状況だ(天災も原因は人災だが)。

天災の防止はお手上げだが、人災を防止するにはアフリカマイマイ移入時の二の舞を演じないことだ。為政者には将来を見据えて決断し、最悪を想定して対策する能力が必須である。が最後まで完走できるよう見守りたい。

ハルサー 金城 稻子

ハルサー だより ④

アフリカマイマイ

四月にトマトの収穫が終わり、七月にマンゴーの収穫が終わる頃、畑の周囲や放置していた畑はうんざりするほどの雑草に覆いつくされる。そのため、八月は草刈りが仕事になる。草刈りをしていて頻繁に出会うのはアフリカマイマイとその卵だ。見つけたら、成貝は鎌の背で叩いて殻を割り、卵は潰して駆除する。その時マスクは必需品だ。跳ねた粘液が口に入るのを防ぐためだ。

アフリカマイマイは戦前に食用として台湾から沖縄に移入されたという。しかし、それには広東住血線虫という寄生虫がいて、生で食べたり、粘液が口に入ると髄膜炎を起こし、死に至ることもあるようだ。戦前の沖縄がいかに食糧難だったかがわかる。

アフリカマイマイの成貝は雌雄同体で、交尾した後はその双方が百千個以上、環境が合えば年に何度も産卵するというからまるで今爆発的に増えているデルタ株のようだ。そのため、有害動物指定を受けているうえに、分布地からの生体の移動も禁止になっている。

八月に四十八℃以上の気温が観測されたイタリアのシチリア島では多くのカタツムリが地面を移動中に足を火傷したり、内側が調理された状態(エスカルゴ)で見つかっているという。